



* ETK0243059A *

MJC-AFP-SC 工法書

ご使用の前に、この工法書を良くお読みの上、内容を理解してから、ご使用下さい。
お読みになった後も、この工法書は大切に保管してください。

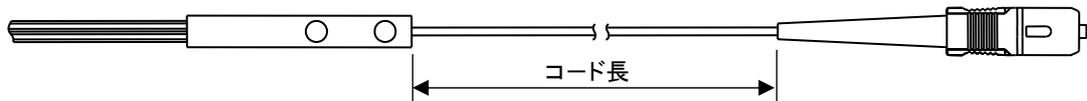
▽ 安全上のご注意 ～安全にご使用いただくために必ずお守りください～

この工法書には、人体への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にご使用いただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次に示すとおりになっております。内容を良くご理解のうえ本文をお読みください。

本クロージャに関する安全上のご注意	
 危険 右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が極めて高いことが想定されます。	—
 警告 右記内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・本クロージャは、落下などの無いように、確実に固定して下さい。 ・架空での施工時には、部品及び使用工具が落下しないようにご注意ください。
 注意 右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性および、物的損害の可能性が想定されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・刃物などのご使用時には十分に注意してください。 ・本クロージャの組立には、本製品以外の部品を使用しないでください。 ・締め付けトルクを規定した作業は、その規定を守って作業をしてください。水の侵入やケーブル及びクロージャの破損の原因となります。 ・クロージャの設置場所については事業者様間で十分協議の上設定してください。本書で示す例は一例であり保証するものではありません。 ・事業者様間のケーブル配線形態については事業者様間で十分協議の上設定してください。本書で示す例は一例であり保証するものではありません。 ・塩害地域では、ステンレス鋼でも腐食する場合があります。
お願い 右記の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の性能を発揮出来ない可能性及び、機能停止をまねく可能性が想定されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・本クロージャの解体・再組立・導入ケーブルの追加などの作業を行う際は別途、部品の交換が必要とする場合がありますので、事前に弊社・営業担当までご相談ください。 ・本製品に適用するケーブルは日本電信電話株式会社殿仕様の「片端コネクタコード付「注1」心SM型架空ドロップ光ファイバ(仮称)」を前提としております。その他のケーブルを使用する場合には、構成品の変更が必要な場合がありますのであらかじめ弊社・営業担当にご相談ください。

▽ 一般的事項

- ・片端コネクタコード付SM型架空ドロップ光ファイバ(仮称)を布設する場合は指定の最小曲率半径を確保し配線してください。
- ・光ファイバ心線および光ファイバテープ心線、光ファイバコードの曲率半径は30mm以上を確保してください。
- ・光ファイバ心線および光ファイバテープは捻れが加わらない状態で収納してください。
- ・片端コネクタコード付SM型架空ドロップ光ファイバ(仮称)のコード長は6ページに示す通りケーブル導入口が分かれており、最適な長さが相違しますので、事業者様間でご協議の上各々のコード長をご準備下さい。



事業者A様コード長:260mm、事業者B様コード長:390mm

▽ 主な構成品一覧

構成部品名	構成数量	備考
MJC-AFP-SC 本体	1組	MJC-AFP-SC の基本キットです。2 連 SC アダプタを最大 4 個実装し、最大 8 心の片端コネクタコード付 SM 型架空ドロップ光ファイバ相互の接続・収納に使用します。
2 連SCアダプタ ^注	1~4 個	SCコネクタ接続用アダプタです。1 個あたり 2 接続に対応します。
AFP 支持線取付金具 A ^注	(1 組)	φ2.6~φ10 の支持線または吊り線に設置する金具
AFP 支持線取付金具 B ^注	(1 組)	φ7~φ16.5 の支持線または吊り線に設置する金具
AFP 壁面取付金具 ^注	(1 組)	壁面に取り付ける金具。壁面取付ネジ(M6)は別途ご用意下さい。

注:オプション(別途購入品)となっている場合があります。その場合は必要に応じてご購入下さい。

▽ 作業フロー

1. クロージャの取り付け	(1)電柱への取り付け
	(2)支持線への取り付け
	(3)壁面への取り付け
2. ケーブルの取り付け	(1)ケーブルの導入順序
	(2)コード固定部の構造
	(3)コード固定部の固定方法及び順序
3. 接続・収納	(1)SC アダプタの取り付け
	(2)SC コネクタの接続順序
	(3)事業者 A 様の接続および収納
	(4)事業者 B 様の接続および収納
4. クロージャカバーの取り付け	
5. 撤去の際の注意事項	

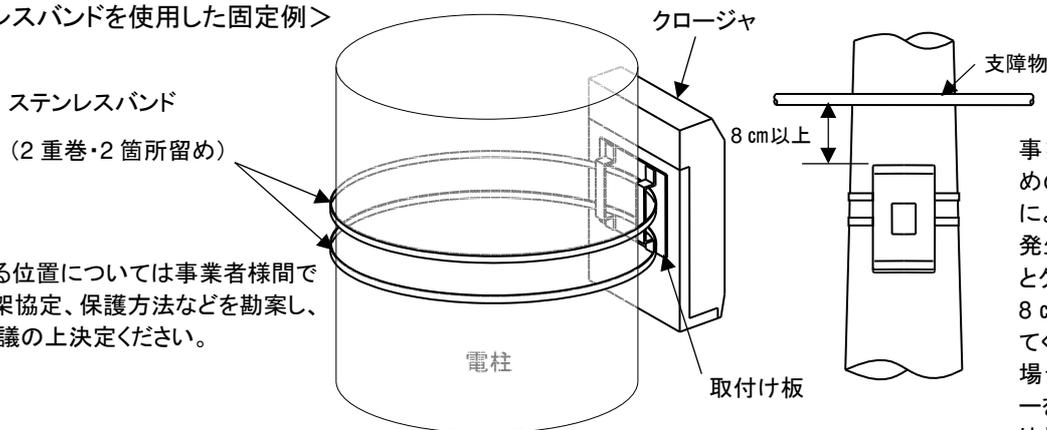
▽ 組立方法

1. クロージャの取り付け

(1)電柱への取り付け

・本製品を電柱に取り付ける際は、下図のようにクロージャ背部の取付け板に、ステンレスバンド等を用いて固定してください。ステンレスバンドを用いて固定する場合は 2 重巻・上下 2 箇所留めしてください。

<ステンレスバンドを使用した固定例>



！注意

取り付ける位置については事業者様間で離隔、共架協定、保護方法などを勘案し、十分ご協議の上決定ください。

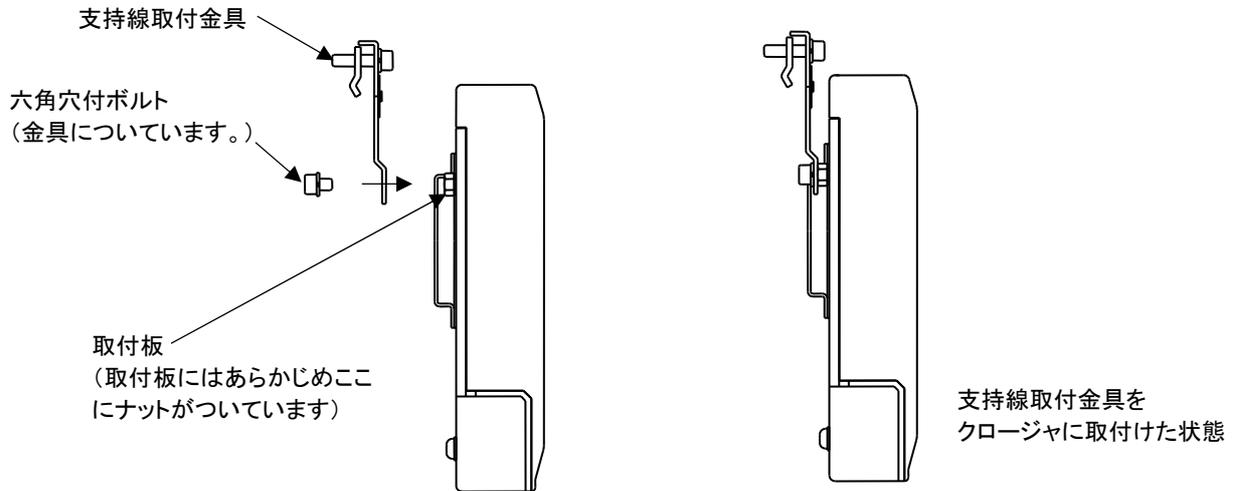
事業者様間でお取り決めのクロージャ取付位置により、上部に支障物が発生する場合は、支障物とクロージャ上面の間に 8 cm 以上の間隔を確保してください。確保されない場合、クロージャのカバーを外すことができなくなります。

(2) 支持線への取り付け

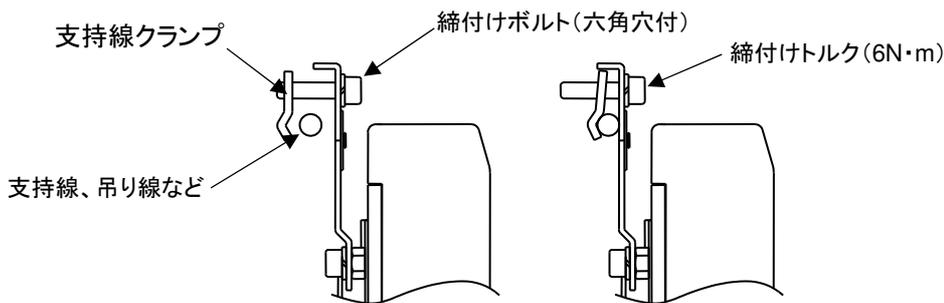
- ・AFP 支持線取付金具 A/Bどちらかが必要です。

(2-1) $\phi 2.6 \sim \phi 10$ 線条への取付け

- ・支持線取付金具Aをご用意ください。金具を用意していない場合は取付けできません。
- ・クロージャ背面の取付け板に支持線取付金具を組み付けます。取付け方向に注意してください。図と反対向きに取付けた場合、線条に設置できない／またはカバーを外すことができなくなります。



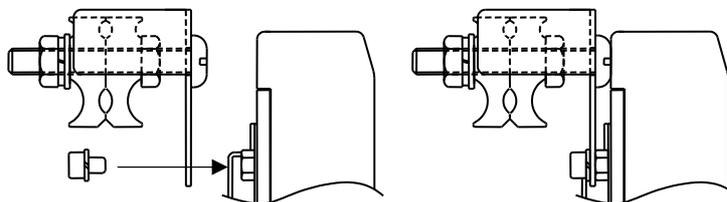
- ・支持線取付金具の上部にある支持線クランプの締め付けボルトを緩め、クロージャを線条に吊り、締付けボルトをトルク $6N \cdot m$ で締付けて固定します。



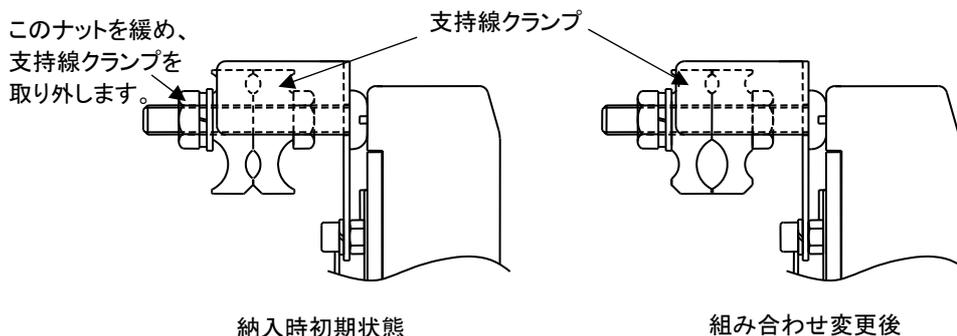
- ！注意) クロージャが傾かないように調整しながら取り付けてください。傾きが激しい場合は浸水の原因になります。
- ！注意) 近傍のケーブルにクロージャや取付金具が干渉する場合は、ケーブルに事業者様間でお取り決めの防護を施してください。

(2-2) $\phi 7 \sim \phi 16.5$ 線条への取付け

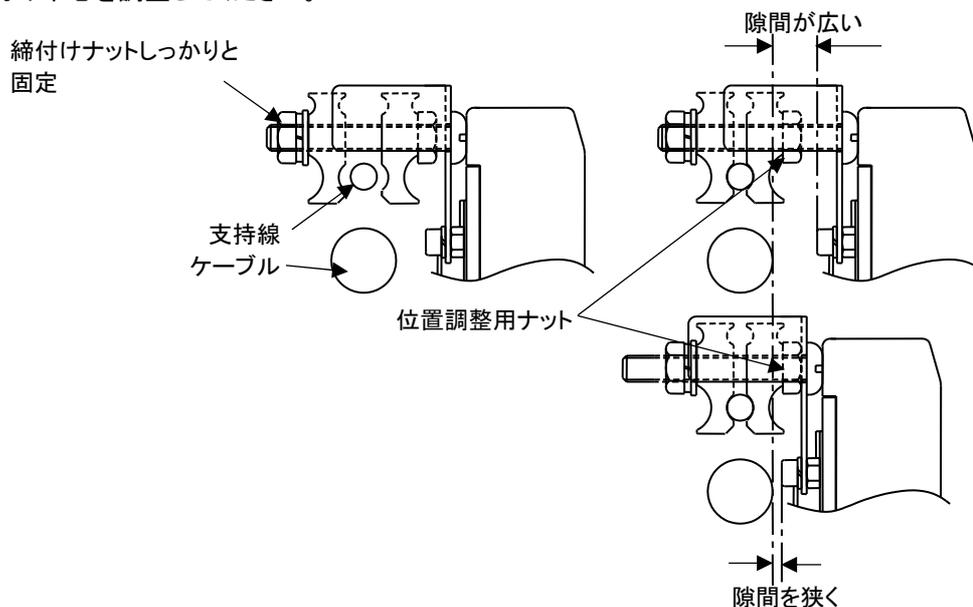
- ・支持線取付金具 B ををご用意ください。金具を用意していない場合は取付けできません。
- ・(2-1)項と同様の手順でクロージャ背面の取付け板に支持線取付金具を組み付けます。



- ・取り付ける対象の線条径が $\phi 12$ 以上の場合、ナットを緩めて支持線クランプを外し下図のように向きを替えて組み合わせなおして下さい。



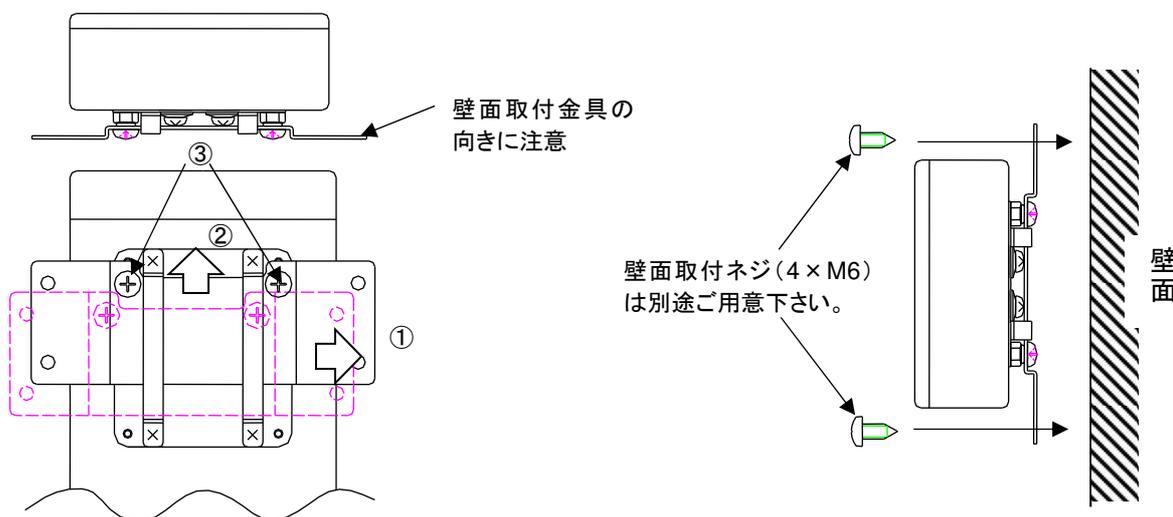
- ・支持線クランプ締付けのナットを緩め、支持線へ吊ります。
- ・締付けナットをしっかりと固定します。
- ・この際、近傍のケーブルにクロージャがなるべく近づくように下図の位置調整用ナットを調整して支持線クランプの締付け中心を調整してください。



- ！注意) クロージャが傾かないように調整しながら取り付けてください。傾きが激しい場合は浸水の原因になります。
- ！注意) 近傍のケーブルにクロージャや取付金具が干渉しますので、ケーブルに事業者様間でお取り決めの防護を施してください。

(3) 壁面への取り付け

- ・AFP 壁面取付金具が必要です。金具を用意していない場合は取付けできません。
- ・クロージャ背面の取付板に壁面取付金具を通し(下図①)、ネジ位置を合わせ組み付けます(下図②、③)。取付け方向に注意してください。図と反対向きに取付けた場合、壁面に取り付けられなくなります。



- ・壁面取付金具の4カ所の穴にM6のネジで傾かないようにしっかりと壁面に固定して下さい。

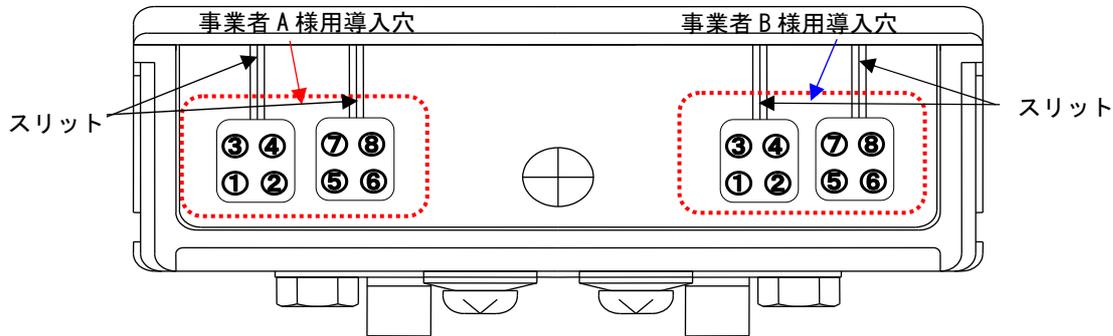
- ！注意) クロージャが傾かないように調整しながら取り付けてください。傾きが激しい場合は浸水の原因になります。

2.ケーブルの取り付け

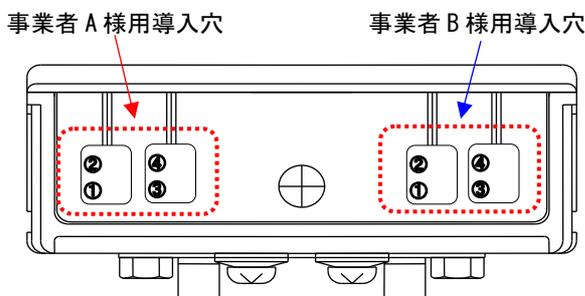
(1)ケーブルの導入順序

- ・クロージャ下部のゴムパッキン部の穴からケーブルを導入します。
- ・パッキンにはスリットがあるので、作業面から、コード固定部のドロップケーブル側根元をスリットに通して下図位置へ導入してください。

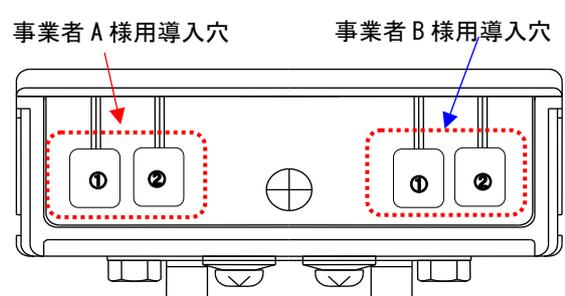
(1)-1 片端コネクタコード付「1」心 SM 型 架空ドロップ光ファイバ(仮称)の場合



(1)-2 片端コネクタコード付「2」心 SM 型 架空ドロップ光ファイバ(仮称)の場合

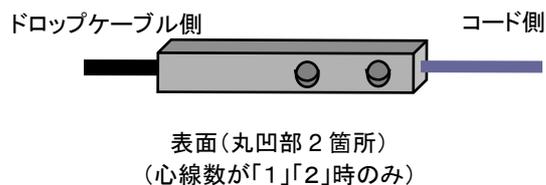
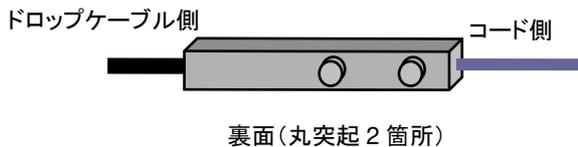


(1)-3 片端コネクタコード付「4T」心 SM 型 架空ドロップ光ファイバ(仮称)の場合



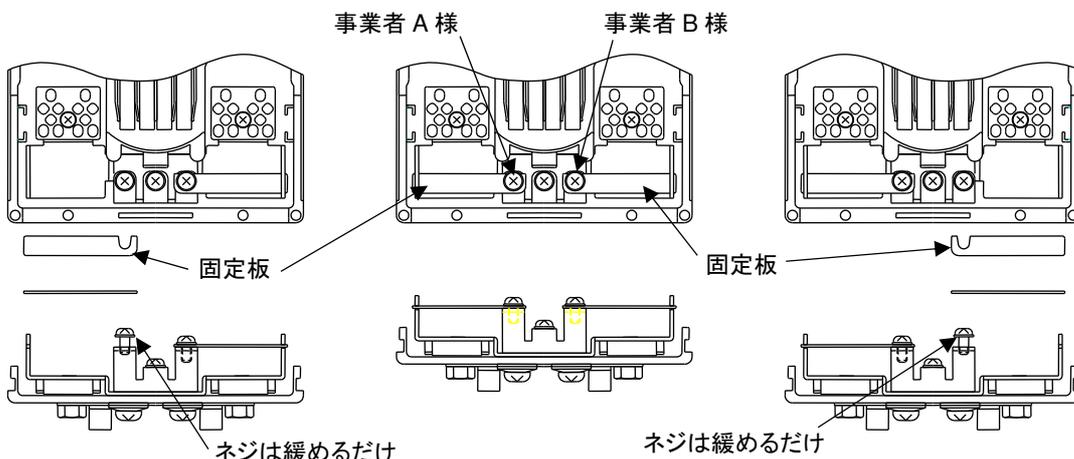
(2)コード固定部の構造

- ・コード固定部には片端コネクタコード付架空ドロップ光ファイバの心線数でサイズが 2 種類あります。心線数が「1」および「2」はサイズは同じです。心線数が「4T」の場合の固定部は「1」「2」より大きく、また表面の凹部は(使用しないので)ありません。



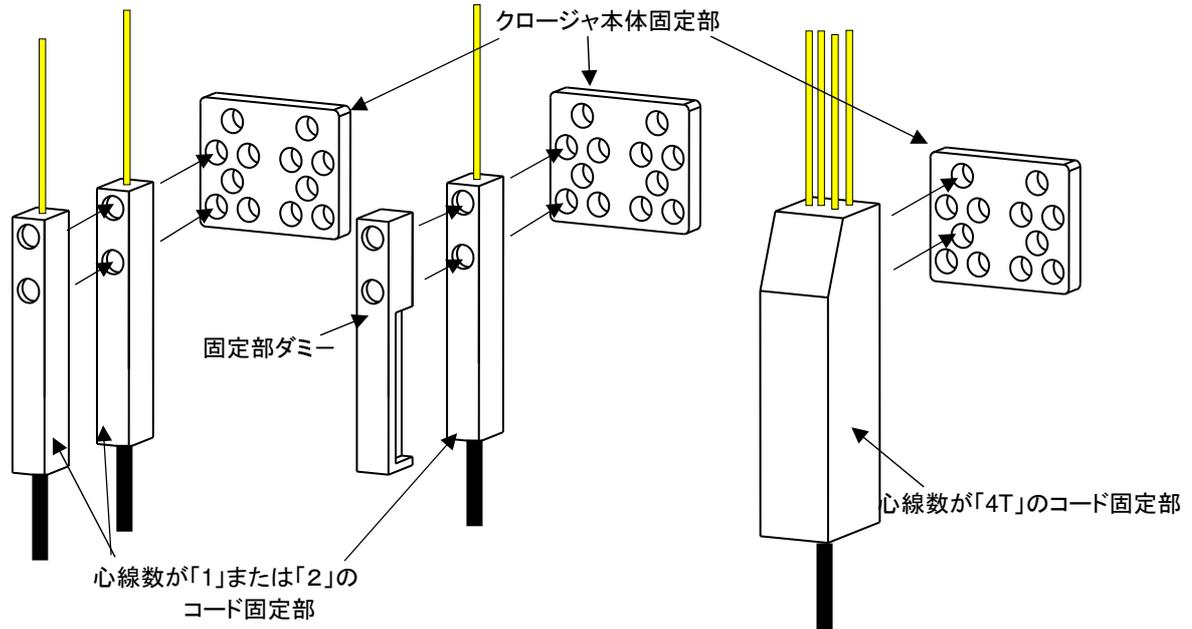
(3)コード固定部の固定方法及び順序

- ・あらかじめ図に示すネジを緩め、コード固定部を固定する作業の準備をします。なお、ネジは緩めるだけとし、外さないで下さい。ネジを外されますとネジの落下、紛失などの原因となります。また固定板はネジを緩めると外れますので、落下、紛失しないよう注意してください。



！注意)決して異なる事業者様領域のネジは触らないで下さい。

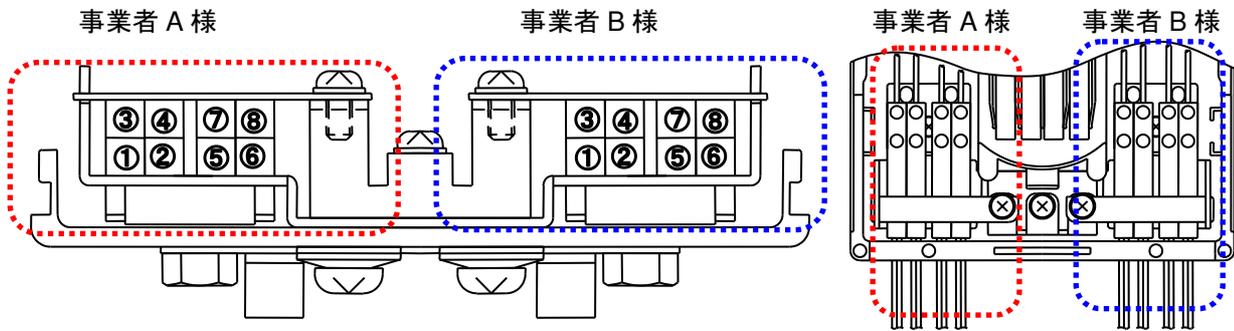
・クロージャ本体の固定部穴に、「コード固定部」の裏面突起を嵌合させ、また1段目の「コード固定部」に別の「コード固定部」または、「固定部ダミー」(クロージャ本体に4個装備しております)を嵌合させて、その上から前項で外した「固定板」をネジ止めて固定します。なお心線数が「4T」の場合は、ダミーは使用しませんし、積層搭載もしません。



！注意)心線数が「1」「2」の片端コネクタコード付「注1」心 SM 型架空光ドロップファイバ(仮称)を使用する際には「コード固定部」を2コ積層した分の厚みがないと、「固定板」での固定ができません。必ずダミーを用い、2コ分の厚みを確保してください。

(3)-1 片端コネクタコード付「1」心 SM 型架空ドロップ光ファイバ(仮称)の場合

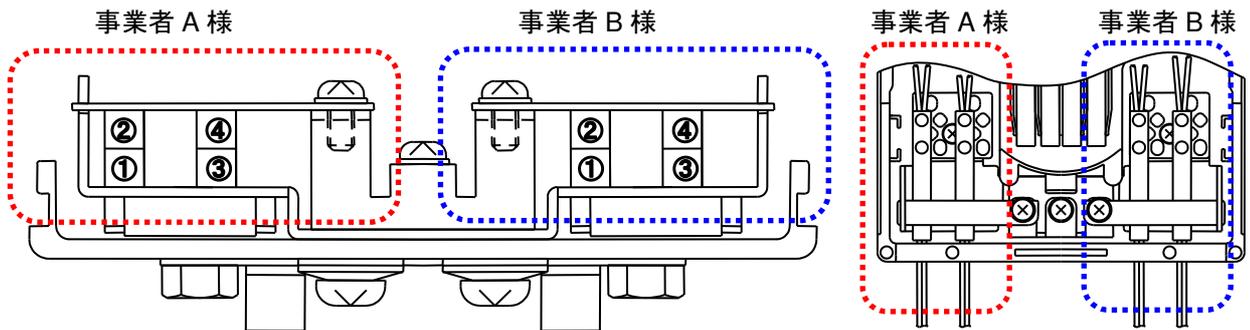
・下図①⇒⑧の順序でご使用ください。



※本図はクロージャを下からみた状態を示します。

(3)-2 片端コネクタコード付「2」心 SM 型架空ドロップ光ファイバ(仮称)の場合

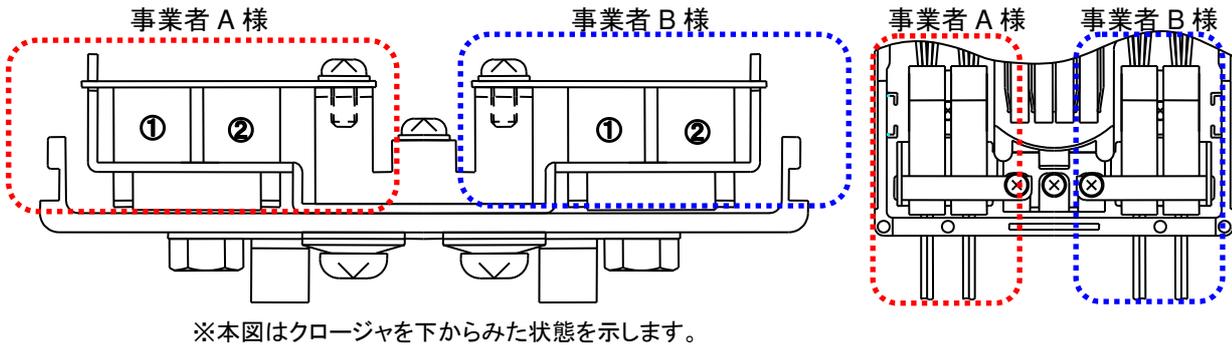
・下図①⇒④の順序でご使用ください。



※本図はクロージャを下からみた状態を示します。

(3)-3 片端コネクタコード付「4T」心 SM 型架空ドロップ光ファイバ(仮称)の場合

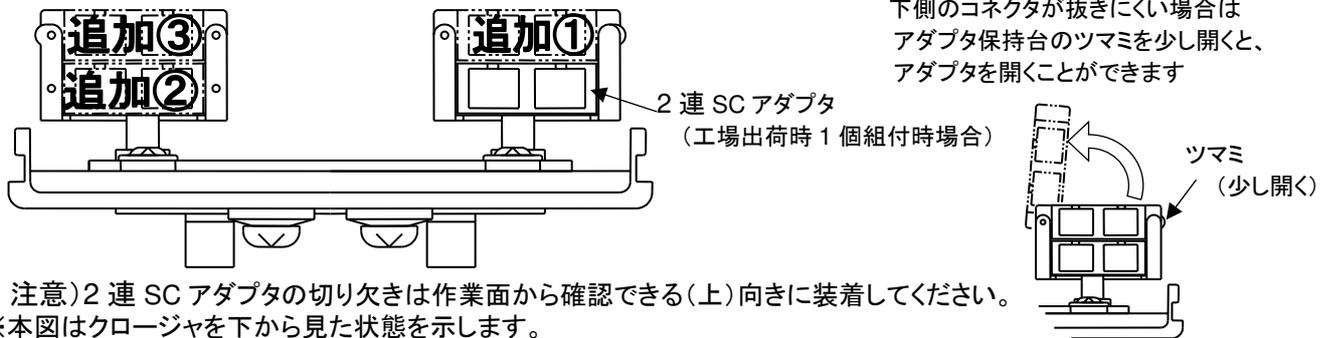
・下図①⇒②の順序でご使用ください。(ダミーは使用しません。)



3.接続／収納

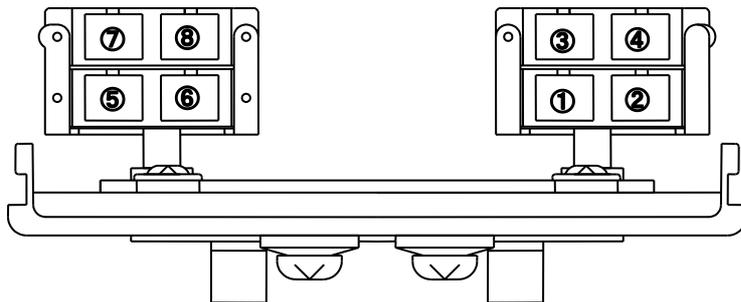
(1) 2 連 SC アダプタの取り付け

・2 連 SC アダプタを別途ご購入されて追加するときには下記順序でお取り付けください。



(2) SC コネクタの接続順序

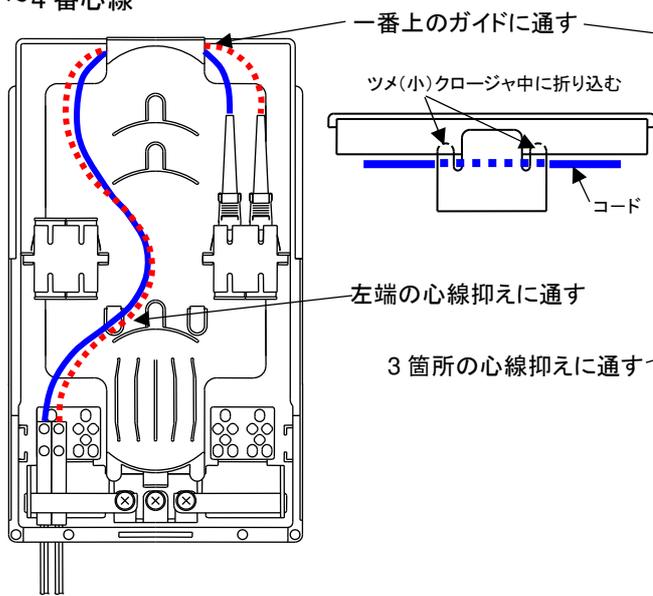
・SC コネクタは下図の順序で 2 連 SC アダプタに嵌着してください。片端コネクタコード付「注 1」心 SM 型架空ドロップ光ファイバ(仮称)は次頁に示す配線を前提にコード長が最適化されていますので、下図以外の順序でご使用になられずとコード長が足りない／長すぎて R30 mm が確保できないなどの不具合が発生します。



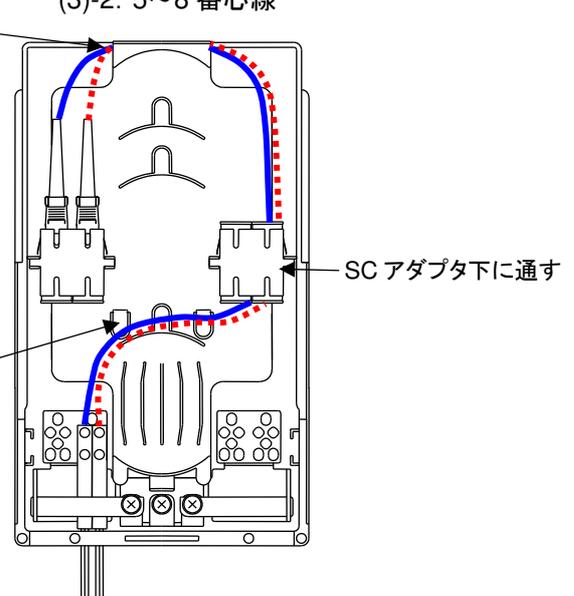
※本図はクロージャを下から見た状態、すなわち事業者 B 様の視点を示します。

(3)事業者A様の接続／収納 ※コード長 26 cmの片端コネクタコード付「注1」心 SM 型架空ドロップ光ファイバ(仮称)を使用して下さい。

(3)-1. 1~4 番心線

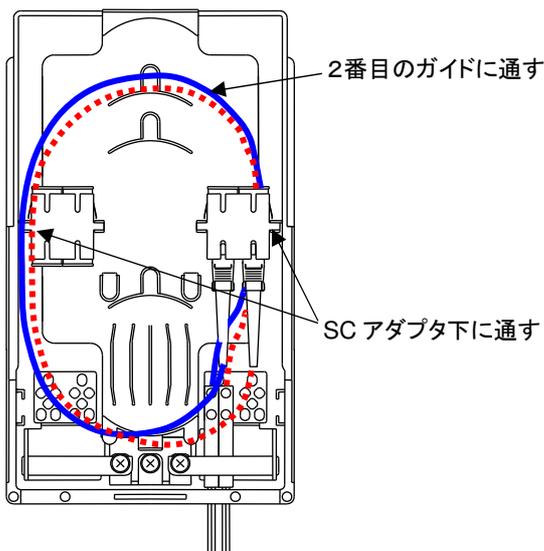


(3)-2. 5~8 番心線

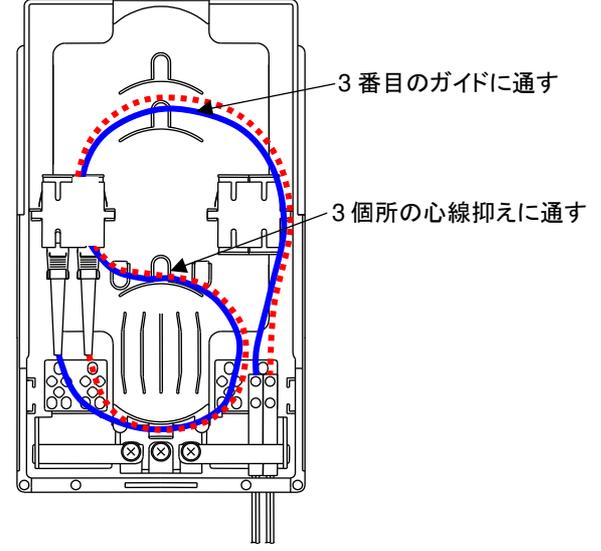


(4)事業者B様の接続／収納※コード長 39 cmの片端コネクタコード付「注1」心 SM 型架空ドロップ光ファイバ(仮称)を使用して下さい。

(4)-1. 1~4 番心線



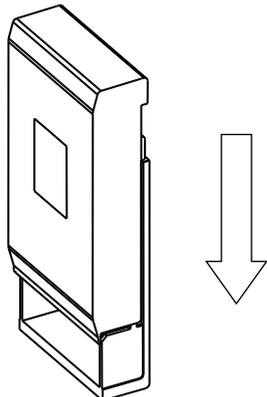
(4)-2. 5~8 番心線



4.クロージャカバーの取り付け

- ・カバーを上方よりスライドさせて取付けます。
(外す時は上方へスライドさせます。)

！注意)脱着の際に勢いよく操作されますと内部の機器に悪影響を及ぼす恐れがありますので注意してください。



5.撤去の際の注意事項

- ・撤去の際は既設光ファイバコードの曲率半径を確保してください。
- ・固定部ダミーが不要となった場合は廃却ならず下図の収納位置に保管してください。

